



# 日耳鼻学会 F A X ニュース NO 136

平成20年1月16日 発行 (特)日本耳鼻咽喉科医会 E-mail jimuj@jenti.or.jp HP http://www.jenti.or.jp  
〒104-0031 東京都中央区京橋2-11-8 全医協連会館5F FAX 03-5524-5228 TEL 03-5524-5230

## 年頭のご挨拶

(特)日本耳鼻咽喉科医会  
理事長 清水 淑郎

明けましておめでとうございます。

昨年中は、医療崩壊が叫ばれ、財務省及び厚生省が改革と称して、種々医療政策を打ち出して参りますが、国民皆保険制度を基本とした今までの医療制度の生態系を破壊するような事ばかり出現しているような気がしてなりません。英国をはじめ米国の失敗した政策をまねばかりしているように思われます。

日本医師会の役員任期が2年に1度、それも診療報酬改定の年と重なるシステムは何とか変えられないものか。医療界が選挙に気を取られている隙間を狙って、重要な政策をどかんと打ち込んで来る、役員改選は4年に1度として、もっと落ち着いた会務遂行が出来るようにしたいものであります。

昨年も、11月に入るや否や、中医協の検討課題は、我々を驚かすものでした。メディアファックスや医事新報etc、種々の情報を参考に、実際に参加している日医の中医協委員に進行状況を質して、我々の要望をも伝えました。幸いにして、事態がだんだん好転して参り、12月下旬、皆様ご承知の如く、平成20年度の診療報酬改定は4度目にして漸くマイナス改定にストップがかかったかに見えました。我々も、やれやれと、多少安堵した気分で見え迎えたのでありますが、何と云うことでしょうか、本年1月8日付けの日経新聞の記事を読んで、啞然と致しました。一旦決定した事に対して厚生省は、又、再診料値下げや処置料うんぬんと言い出しました。我々は、本日(1月10日)、三度日医会館に中医協委員を訪ね、この蒸し返し議論に何とか反対して、本来の日医の主張を貫いて下さるよう、お願いしました。そして、ここにかねて用意しておいた日医会長宛の「請願書」を正式に提出して参りました。今後16日より始まる中医協の議論に注目して参りたいと思います。

以上のような目前に迫った危機に対して、我々の行った行動の経過報告を申し上げ、新年のご挨拶と致します。

..... 請願書本文 .....  
.....

日本医師会  
会長 唐澤祥人 殿

## 耳鼻咽喉科処置存続に関する請願書

平成19年10月31日開催された第105回中央社会保険協議会診療報酬問題小委員会において『必ずしも医師などの医療職による高度の技術を要せず患者本人もしくは、家人により行うことの可能となる処置として』具体的にJ001熱傷処置、J053皮膚軟膏処置、J086眼処置、J095耳処置、J097鼻処置、J119消炎鎮痛処置などについて、基本診療料に含まれるとして、これらの処置が削除されることに対して全面的に反対し、これらの処置が従来どおり算定できるよう要望いたします。

医療機関で行うこれらの処置は大きな責任を伴うものであり、耳処置も時として中耳炎の内耳波及を防止することや、鼻処置も副鼻腔への炎症の拡大を防止したり、咽頭処置も急性喉頭蓋炎による気道閉塞や窒息などを未然に防ぐため、耳鼻咽喉科医師の専門知識と高度の技術

を必要とする処置であります。これらの処置を軽んずることは医療の基本を考慮しない無謀な行為といわざるをえません。

又、今回の提案は、まだまだ医療費が削れるという非現実的論理により、医療費の総枠の中で一方を削減して他方に回すという愚挙としか考えられません。崩壊しつつある今日の医療を立て直すためには広く他より財源を求めるべきであります。

処置点数の削減は、耳鼻咽喉科の専門性の根幹をゆるがす問題であり、地域医療に取り組んでいる耳鼻咽喉科専門医にとってその熱意をそぐ行為であると思われま。専門的処置を高く評価して戴き、これらの基本処置の重要性を認識し、くれぐれも変更なく存続できるようお願いいたします。

## プラス改定に安堵も不満噴出

本体0.38%増に医療関係団体  
政府が2008年度診療報酬改定の本体部分を0.38%増とすることで正式に合意した12月18日、医療関係団体からは8年ぶりの本体プラス改定に安堵の声が上がった一方で、0.38%増だけでは医療崩壊は脱却できないとの厳しい意見も相次いだ。

今後は次期改定の最重要課題である「勤務医の負担軽減」にどれだけの財源を回すのか、診療所の再診料の引き下げを断行するのかがどうか焦点となるが、医療関係団体からは、わずかなプラス幅の中で勤務医と開業医が財源を奪い合うような「愚行」は避けるべきとする声も相次いで上がった。(J.M)

## 開業医再診料下げ 再提案へ 厚生省

厚生省は来年度改定に向け、2回目移行の診察で開業医が受け取る再診料の引き下げを中医協に再提案する方針。再診料の引き下げは改定の最大の焦点だが、日医の強い反発で昨秋に一旦撤回した経緯がある。厚生省は中医協で健保連が引き下げに賛成すると見込んでおり提案し直すことにした。

厚生省が再提案に踏み切るのは大企業の会社員が加入する健保連が強く引き下げ要求を打ち出すと見ているため。医師会や与党は引き続き強硬に反対する見通しだが、厚生省は「昨年末の予算編成で診療報酬本体の引き上げ財源を拠出した健保連が、改めて引き下げを主張すれば状況は変わる」と見ている。(日経新聞 1月8日)

プロスタグランジン阻害剤  
アレルギー性鼻炎治療剤  
3 バイナス 50mg 75mg  
Baynas  
日本新薬株式会社  
バイエル薬品株式会社